

## 中国・山西省「農村実用人材」に関する実態分析

雷 錦霞<sup>\*1</sup>・武田 淳<sup>\*2</sup>・李 應喆<sup>\*3</sup>

(<sup>\*1</sup>中国・山西省農業科学院農業資源総合考察研究所；佐賀大学農学部客員研究員

<sup>\*2</sup>日本・佐賀大学農学部生物生産学科地域資源学研究室，<sup>\*3</sup>ソウル長神大学)

平成19年10月31日 受理

### The Analysis on the Practical Talents in Rural Areas of Shanxi, China

Lei JINXIA<sup>\*1</sup>, Jun TAKEDA<sup>\*2</sup> and Eung-Cheol LEE<sup>\*3</sup>

(<sup>\*1</sup>Shanxi Academy of Agricultural Science Institute of Integrative Survey of Agro-Resources,  
CHINA: Visiting Professor, Faculty of Agriculture, Saga University, JAPAN

<sup>\*2</sup>Department of Resource Management and Social Sciences, Faculty of Agriculture, Saga University, JAPAN

<sup>\*3</sup>Seoul Jangsin University, Seoul, SOUTH KOREA)

Received October 31, 2007

### Summary

In recent years, the relationship among the sustainable development of Chinese countryside, agriculture and rural work force is becoming closer and closer along with the progress of economical globalization. It is believed that the improvement to qualify the work forces' and to make efficient use of the human resource in those rural areas is one of the efficient ways to guarantee the rural areas' development. The paper analyzes the practical talents in rural areas with special reference to the characteristics such as size, construction, efficiency, developmental environment and so on. In addition, the authors put forward some strategies and measures to develop the practical talents in rural areas in Shanxi province, China.

**Key Words:** Shanxi province, China, practical talents in rural areas, human resource, strategies and measures

### はじめに

近年、中国の農政は1978年の「十一届三中全会」(<sup>注\*1</sup>)会議によって提唱・推進されてきた方向を修正し、自給自足型農業から商品生産型農業へ、増産型農業から品質重視型へ、伝統技術型から伝統技術と現代技術の混合型へ、労働集約型から労働集約・資本・知識集約型へ、さらには資源浪費型から生態保護・持続発展型へ転換しつつある。例えば、2006年には中国政府は専門資金を5億元に増やし、さらにその対象地域を400カ県に拡大し、全国では「土壌の測定による施肥技術」(testing soil for formulated fertilization)を行ってきた。すなわち、有機農業の促進をはかり、生態保護・持続発展型への転換を試みるようになった。そのためには農村労働者の質的な意識向上が重要であると考え、その施策が打ち出されるようになった。2003年末、中国史上はじめての「全国人材工作会議」が北京で開かれた際に「人材資源は第一資源」とい

う理念が発表・提唱され、「中国中央国務院の人材工作強化決定」をし、農村経済社会発展と都市、農村協調発展のため、農村における科学技術、教育、文化、衛生、経営管理等の実用人材育成のためのチームづくりが始まった。また2004年には、人材強国戦略が2006年～2010年の国家計画として描かれ、とりわけ「農村実用人材」は人材資源の重要な部分として注目されるようになった。一方、山西省政府も2003年に「人材工作の強化と人材強化戦略の実施精神」として、農村人材の資源開発業務を強化する方針を打ち出している。

本稿の目的は山西省の「農村実用人材」の実態分析を通して、今後、山西省の「農村実用人材」発展の方向性について検討することである。「農村実用人材」とは、一定の知識と技能を持ち、模範あるいはリーダー的な存在として、地域の農業と農村経済の発展に貢献でき、大衆から認められる農村労働者である。「農村実用人材」は、「生産技能者」、「経営技能者」、「職人」と「他実用型人材」の4つに分類され、さらに「生産技能者」の場合は4つの人材タイプ、「経営技能者」は3つの人材タイプ、「職人」は2つの人材タイプに分けられる。

「農村実用人材」の定義及び分類については表1に示す。分類指標の認定基準は中国政府によって定義されているが、実際の認定作業は地域の実情に応じて県の専門委員と村の村長や幹部が共同で行っている。山西省政府は2004年1月～5月に初めて「農村実用人材」の調査を行い、2006年に第2回目の調査を行っている。

表1 中国政府による「農村実用人材」の定義

| 指標名称     |                 | 定 義   |
|----------|-----------------|---|
| 生産技能者    | 栽培技能者           | 一種類あるいは多種類の栽培植物の面積は大規模であり、あるいは他の農民と同じ面積でありながら施肥などの投入条件で生産高が地元の農家の平均より大幅に多いあるいは単位面積の土地収入が明らかに他の農家より多い模範的、リーダー的な存在として、他農家への技術伝授や支援を行う農家や技術基幹人員である。          |
|          | 養殖技能者           | 一種類あるいは多種類の食用動物や水生動物を相当量養殖し、あるいは同等の市場条件で養殖の収益が他の養殖農家より明らかに高く、模範的な存在として、他の養殖農家への技術伝授や支援を行う農家や技術基幹人員である。  |
|          | 捕獲技能者           | 船のオーナー、あるいは賃貸船で相当数の漁民をとりまとめ、共同的に捕獲作業を行い、経済収益が明らかに高く、模範的な存在として、他の漁民へ技術伝授や支援を行う漁民である。   |
|          | 加工技能者           | 農産物の加工に専業し、相当量の規模に達し、地元の農業産業化経営に対して相当の模範効果があり、他の農民へ支援を行う農民である。  |
| 経営技能者    | 企業経営人材          | 個人あるいは合作で生産資源や資金を所有し、工業、建築業、運送業、商業、飲食業および他のサービス業等の非農業を経営し、相当の規模に達し、相当の経済収入と相当の模範効果があり、さらに相当量の労働力就業問題を解決できる農村労働者である。個人経営、合作経営、規模が大きく、まだ企業レベルに達していない経営者を含む。 |
|          | 農村経済人材          | 製品の供給や需要情報の提供、実用技術の推進、科学技術情報の提供等の専業仲介サービスを行い、地元の農業と農村経済の発展に有益な活動を行い、相当の収入をあげている農村労働者である。  |
|          | 農民専業合作経済組織のリーダー | 農民の経済合作組織の立ち上げ、起業や農民専業技術協会などの立ち上げと起業を行う人である。  |
| 職人       | 技能労働型人材         | 製造業と加工業と建築業等の業界で、高い技術や技能を持ち、他の農民に技術を伝授し、その業界に就労させることができ、相当の収入を得ながら、地元の農村経済の発展に貢献している人である。   |
|          | 文化と体育等芸術類人材     | 地元の文化や芸能などに精通し、地元を代表する最高レベルの民間芸術家、芸人や民間スポーツのプロフェッショナルである。   |
| その他実用型人材 |                 | 生産技能者、経営技能者と職人の3種類以外の農村実用人材である。   |

資料出典：「2006年山西省人事庁調査報告」

## 1. 山西省の農業の分析

### (1) 山西省農業の実態

中国・山西省<sup>(注\*2)</sup>(図1)は農業を主産業とする省であり、農業人口は1,942.4万人で、総人口の57.8%を占めている。2005年の山西省農業総生産額は485.9億元、その内訳は、食糧作物と換金作物を栽植する栽培業60.8%、林業は3.8%、養殖業31.5%、捕獲業0.5%、農業的サービス業3.4%になる。山西省の主要な農産物は小麦、トウモロコシ、大豆、アワ、コーリャン、イモ類などの食糧作物とワタ、サトウダイコン、野菜、麻類やタバコなどの換金作物からなる。以前、山西省の農業生産は小麦、トウモロコシ、アワ、コーリャンやイモ類等の栽培を主とし、とりわけ小麦とトウモロコシの栽培がもっとも多かった。例えば、1978年の食糧栽培による生産額は山西省農業総生産額の79.3%を占め、また農産物栽培の中で、食糧作物の栽培面積は総面積の84.1%を占めていた。現在、食糧作物の栽培面積は総面積の79.9%と減っているのに対して、換金作物の栽培面積は次第に増える傾向にあり、4.1%に増加している。農村の企業形態をみると、農産物を加工する企業が大多数を占めているものの、現代化した大規模な企業、乳業協会や野菜協会などの農民専業合作経済組織は少ない。



図1 中国・山西省

### (2) 山西省の農業問題

21世紀に入ってから山西省の農業発展のための課題は、特産物生産の強化と有機農業の促進である。そのためには、農民サイドにも比較的に高度な科学技術水準と厳格な操作規範が不可欠である。しかし山西省には熟練した新しい科学技術を利用できる農民は少ないために、肥料や品種についての知識と、それを利用する技術をもった実用人材を増やす必要がある。

また近年、人々の食生活が徐々に変化し、野菜、肉、卵や魚等の需要が高まったため、省内各地の農産物栽培の構造調整が始まった。単一栽培種だけでは、人々の需要を省内で満たすことができなくなったからである。林業、養殖業、捕獲業や農業的サービスの総合的な発展と農村企業の発達も必要になってきたため、「農村経済人材」や「農民専業合作経済組織のリーダー」等の需要も高まっている。

栽培業が主産業である山西省の農村は、栽培や刈り取り作業における機械化によって、技術水準が高まり、労働力の余剰が生まれるようになったが、栽培業の利益は依然として低く、栽培業だけでは家計を満たせない状況にある。そのため、山西省の多数の農村では、18歳～30歳の青年男女の80%は都市でアルバイトをするばかりか、30歳以上の中年男性も農閑期に都市でアルバイトをするようになった。したがって、農業生産のほとんどは女性と50歳以上の老人が任っていて、女性の実用的人材化も大きな課題になっている。

## 2. 山西省の「農村実用人材」に関する現状分析

### (1) 人材数の分析

図2は山西省の農村実用人材の内訳を示したものである。データ中、一人が複数の分野の人

材として認定された場合は、それぞれの分野の人材の統計に組み入れた。

近年、山西省の「農村実用人材」は急速に増加している。2006年、農村実用人材は318.1万人になり、全省農業人口総数の1.3%に達し、全国平均レベルの0.6%より高い。人材の密度も、2004年の85.3人/万人から133.9人/万人に増え、増加率は56.9%と高くなっている。

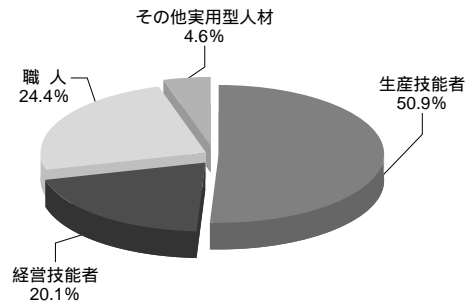


図2 山西省の「農村実用人材」構造図(2006年)

## (2) 「農村実用人材」の資源配置状況

表2は山西省の四種類の「農村実用人材」の統計である。データから、現在、山西省農村実用人材の産業分布構造は主に栽培業と養殖業等の伝統産業であるのに対して、経営管理および開発等の新興産業人材は非常に少ないことがわかる。「農村実用人材」のうち、「生産技能者」が全体の50.9%を占め、比率はもっとも高い。その次は「職人」で24.4%、「経営技能者」の比率は20.1%である。伝統産業のうち、栽培業の実用人材の比率がもっとも大きい。捕獲業の人材は少なく、全省農業実用人材の0.3%でしかない。同時に新興産業のうち、農民專業合作經濟組織の發展は早いですが、農民專業合作經濟組織のリーダー的人材および農村經濟人材はまだ不足していることがわかる。

表2 山西省における四種類の農村実用人材統計一覧表(2006年)

| 指標名称            | 人材数(人)  | パーセント |
|-----------------|---------|-------|
| 1. 生産技能者        | 161,757 | 50.9  |
| 栽培技能者           | 83,915  | 26.4  |
| 養殖技能者           | 49,174  | 15.5  |
| 捕獲技能者           | 960     | 0.3   |
| 加工技能者           | 27,708  | 8.7   |
| 2. 経営技能者        | 63,953  | 20.1  |
| 企業経営人材          | 34,005  | 10.7  |
| 農村經濟人材          | 22,137  | 6.5   |
| 農民專業合作經濟組織のリーダー | 7,811   | 2.5   |
| 3. 職人           | 77,642  | 24.4  |
| 技能労働型人材         | 60,315  | 19.0  |
| 文化、体育、芸術類人材     | 17,327  | 5.5   |
| 4. その他実用人材      | 14,708  | 4.6   |
| 農村実用人材(合計)      | 318,060 | 100   |

資料出典：「2006年山西省人事庁調査報告」

「生産技能者」の場合、人材総数の多い順番から、栽培業、養殖業、加工業、捕獲業の順になる。栽培業の人材が多いのは山西省の栽培業を中心とした伝統と一致している。近年、養殖業の發展も著しく、その人材の数も第二位になってきている。

「経営技能者」のうち、農村産業の調整とともに、工業、建築業、運送業、商業、飲食業および他のサービス業の個人や合作企業が發展しているため、「企業経営者」の比率はもっとも多い。同時に、製品情報の提供、実用技術の誘致、科学技術情報の伝術等にかかわる農村經濟人材も増えてきていて、「経営技能者」の34.6%を占めている。しかし、山西省の農村經濟發展のスピードはまだ遅々としていて、小規模の專業技術組合がスタートしたものの、農民專業合作經濟組織の人材比率はまだ低い。

「職人」のうち、農村製造業、加工業や建築業等の高水準の専門職人材が増え、技能リーダー的な人材の比率は職人全体の77.7%、文化、体育芸術類人材は22.3%になっている。

### (3) 年齢別構造状況

表3は山西省四種類の「農村実用人材」の年齢構造である。山西省人事庁2006年の調査によると、山西省「農村実用人材」のうち、40歳以下の中青年数は151,400人、全省農村実用人材総数の47.6%を占めている。40歳以上の人材は52.4%で、中青年「農村実用人材」の比率はやや低い。「農村実用人材」の総数量を増やすためには、「農村実用人材」の研修および認定作業を加速する必要がある。

表3 山西省における各種類の農村実用人材年齢構造表(2006年)

| 指標名称           | 40歳以下：40歳以上 |
|----------------|-------------|
| 1. 生産技能者       | 1 : 1.18    |
| 栽培技能者          | 1 : 1.25    |
| 養殖技能者          | 1 : 1.20    |
| 捕獲技能者          | 1 : 2.45    |
| 加工技能者          | 1 : 0.90    |
| 2. 経営技能者       | 1 : 1.06    |
| 企業経営人材         | 1 : 1.10    |
| 農村経済人材         | 1 : 0.94    |
| 農民專業合作經濟組織リーダー | 1 : 1.28    |
| 3. 職人          | 1 : 1.01    |
| 技能労働型人材        | 1 : 1.02    |
| 文化、体育、芸術類人材    | 1 : 1.01    |
| 4. その他実用型人材    | 1 : 0.94    |
| 農村実用人材(合計)     | 1 : 1.10    |

資料出典：「2006年山西省人事庁調査報告」

統計によると、全省中青年農村実用人材のうち、生産技能者の比率がもっとも大きい。中青年生産技能者は全省青年農村実用人材の49.0%を占めている。その次に多いのは職人で、比率は25.5%、経営人材の比率は20.5%で、もっとも少ないのは他実用型人材で、5.1%しかない。また、40歳以下の中青年比率で40歳以上を超えているのは、四業種のうち、加工技能者、農村経済人材と他実用型人材だけである。このことから、栽培業と養殖業等の他の分野でも中青年農村実用人材の強化、後続人材資源の貯蓄や人材の外部流出を防止することが重要な課題になってくる。

### (4) 「農村実用人材」の性別構造

山西省の農村労働者、特に栽培業にたずさわる者のうち、女性の比率は非常に大きい。女性実用人材の活用は、農村経済の発展を握る重要な鍵になってくるが、男性と比べると、女性は労働力研修や教育を受ける機会が少ない。その原因は、女性は家事や育児などで忙しいことに加え、訓練する時間が少なく、社会活動に参加する積極性があまり高くないからである。山西省農村実用人材資源調査の統計(2004年)によると、女性実用人材は、実用人材の3.2%しか占めておらず、一万人の女性労働者のうち、実用人材は14人しかいないことになる。現在、山西省の女性労働者の数は452.24万人に増え、農村労働力の44.7%を占めているが、女性実用人材の比率からすれば、バランスが非常に悪い。

栽培業を実際に任っているのが女性であることを考えると、教育水準が高く、農薬や肥料等

についての知識や技能を持つ女性実用人材が今後、農村発展の重要な人材層になるのは必至である。

#### (5) 「農村実用人材」の学歴構造

山西省「農村実用人材」のうち、専門学校学歴以上の高い学歴人材は25,043人と非常に少なく、全省農村実用人材の7.9%しかない。高卒は101,023人で、農村実用人材の31.8%を占めているが、中卒および中卒以下のものは191,994人で、60.4%と倍近い割合になる。四種類の農村人材の学歴を比較したのが、図3である。

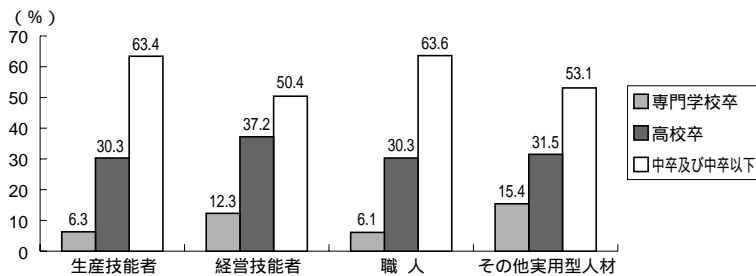


図3 2006年山西省「農村実用人材」学歴構造図

図3が示すように、四種類の「農村実用人材」は全体的に学歴が低い。中卒および中卒以下の人材は50%以上を占め、「職人」の場合、その比率は63.6%になっている。もっとも比率の低い「経営人材」でも、50.4%である。専門学校卒の高学歴者の場合は、四種類「人材」のいずれについても比率はもっとも低く、「職人」の場合には、6.1%しかない。高卒の農村実用人材が四種類の人材で、おおよそ30%~40%になっている。

表4 2006年山西省「農村実用人材」学歴構造明細表

|       | 専門学校            |       | 高校    |        | 中学校およびそれ以下 |        |      |
|-------|-----------------|-------|-------|--------|------------|--------|------|
|       | 人数(人)           | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%)  | 人数(人)      | 割合(%)  |      |
| 生産技能者 | 栽培技能者           | 4,564 | 5.4   | 24,596 | 29.3       | 54,755 | 65.3 |
|       | 養殖技能者           | 2,752 | 5.6   | 14,185 | 28.9       | 32,237 | 65.6 |
|       | 捕獲技能者           | 15    | 1.6   | 160    | 16.7       | 785    | 81.8 |
|       | 加工技能者           | 2,838 | 10.2  | 10,099 | 36.5       | 14,771 | 53.3 |
| 経営技能者 | 企業経営人材          | 4,624 | 13.6  | 12,078 | 35.5       | 17,303 | 50.9 |
|       | 農村経済人材          | 2,235 | 10.1  | 8,826  | 39.9       | 11,076 | 50.0 |
|       | 農民專業合作経済組織のリーダー | 1,030 | 13.2  | 2,899  | 37.1       | 3,882  | 49.7 |
| 職人    | 技能労働型人材         | 3,031 | 5.0   | 18,015 | 29.9       | 39,269 | 65.1 |
|       | 文化、体育、芸術類人材     | 1,687 | 9.7   | 5,526  | 31.9       | 10,114 | 58.4 |
|       | その他実用型人材        | 2,267 | 15.4  | 4,639  | 31.5       | 7,802  | 53.1 |

資料出典：「2006年山西省人事庁調査報告」

表4から見ると、専門学校以上の高学歴人材がもっとも大きい比率を占めるのは、その他実用人材の15.4%である。その次は企業経営人材の約13.6%で、もっとも少ないのは捕獲業で、わずか1.6%しかない。また、高卒の実用人材の場合でもっとも高い比率を占めるのは農村経済人であり、もっとも低いのは捕獲業になる。中卒および中卒以下の場合、捕獲業で比率が高い81.8%であるのに対して、比率がもっとも低いのは農民專業合作経済組織のリーダー的な人材の約49.7%である。

#### (6) 「農村実用人材」の地域構造

山西省「農村実用人材」の地域性の分布は非常にバランスがよくない。都市の周辺部や平野部は、生産環境がよく、交通が便利で、経済水準が高い地区と、農村実用人材の数が多いばかりか、学歴も高い。一方、辺縁部の貧困地方では経済発展水準が低く、農村実用人材の数も少ないうえに、人材発展のスピードも遅く、地方から経済発達している地域への人材の移動現象が目立つ。

#### (7) 「農村実用人材」の育成のための教育

山西省「農村実用人材」の育成の方法には農村技術宣伝機構、農業放送学校、農業職業学校、農業本科院校等の国立機関による学習・教育、師匠術の伝授、独学によるものもある。交通費や農繁期の多忙さなどのために、農民は学校に行くことが難しく、農民への教育普及に関しては、不安定な一面がある。

統計によると、2004年山西省「農村実用人材」のうち、農業技術宣伝機構の教育を受けた人は12.6%にすぎない。また、農業放送学校の教育を受けた人は1.1%、師匠術の伝授は7.0%、独学によるものは63.7%、その他は13.3%になる。独学で習得した人材が約三分の二を占めていることから、各教育機構および学校の就学率の低さは明らかである。新しい技術を学ぶという農民の要求を満たすために、省は普及員を農村に派遣しているが、農村実用人材の教育の役割をもっと高めていく必要がある。

### 3. 山西省「農村実用人材」資源の発展ビジョンと問題点

#### (1) 人材数が増えているが、総数はまだ不足している

政府や省の宣伝広報により、「農村実用人材」は近年持続的に増加し、2004年～2006年農業技術専門教育を受けた人数は81,360人になっているが、まだまだ不足している状況にある。2004年の調査によると、平均的に山西省の一万人の農業人口のうち、「農村実用人材」はわずか853人であったが、2006年には134人までに増えている。人材密度は全国平均水準より若干高いが、経済発達地区と周辺の省と比較すると、かなりの差がある。また、職業教育を受け、技術・技能を持っている農村実用人材は農村労働者の1.7%でしかなく、専門技術資格を持っている農村実用人材はわずか0.2%で、全国平均レベルの2.2%よりかなり低い。農村経済の発展により、今後は多くの高い文化素質や技術・技能を持ち、適応性が高い農村実用人材が必要になってくる。現在の農村実用人材の発展は、膨大な農村人口と比較すると、農業と農村経済の持続的な発展のための需要を満たしていない状況にある。

#### (2) 人材の素質は向上しているが、発展のスピードは不均衡である

表5を見ると、山西省の高素質「農村実用人材」の発展は非常に早く、2004年に3.8%だったものが、2006年になると7.9%までに増えた。企業経営人材の増加率は比較的に高く、9.1%まで上っている。ただし、技能労働型人材は発展スピードが低く、増加率がマイナスであることに関しては、山西省政府が今後、全面的に人材教育制度を見直すべきである。

表5 山西省における高素質人材構造比較表

|                | 2004年専門学校<br>以上の割合(%) | 2006年専門学校<br>以上の割合(%) | 増加率  |
|----------------|-----------------------|-----------------------|------|
| 1. 生産技能者       | 2.8                   | 6.2                   | 3.4  |
| 栽培技能者          | 4.5                   | 5.4                   | 0.9  |
| 養殖技能者          | 2.0                   | 5.6                   | 3.6  |
| 捕獲技能者          |                       | 1.6                   |      |
| 加工技能者          |                       | 10.2                  |      |
| 2. 経営技能者       | 4.2                   | 12.3                  | 8.1  |
| 企業経営人材         | 4.4                   | 13.5                  | 9.1  |
| 農村経済人材         | 3.2                   | 10.1                  | 6.9  |
| 農民專業合作經濟組織リーダー | 5.5                   | 13.2                  | 7.7  |
| 3. 職人          | 6.8                   | 6.1                   | -0.7 |
| 技能労働型人材        | 7.1                   | 5.0                   | -2.1 |
| 文化, 体育, 芸術類人材  | 5.3                   | 9.7                   | 4.4  |
| 4. その他実用型人材    |                       | 15.4                  |      |
| 農村実用人材(合計)     | 3.8                   | 7.9                   | 4.1  |

資料出典：「2006年山西省人事庁調査報告」

### (3) 人材発展環境はまだ改善の余地がある

#### 政策の環境

「農村実用人材」への育成は遅れているうえに、統一的な計画や管理は極端に少なく、資金の投入もまだ需要を満たしていない。経費が少ないために、農村実用人材の訓練は大きい村を中心に行なわれている、交通の不便な小さな村では行なわれていないのが実情である。また、訓練回数も不足していて、1年で2回ぐらいと少ない。さらに農民教育の業務は非常に繁雑であり、専門家も教材も不足している。「農村実用人材」への評価体制や資格認定体制は十分に出来ておらず、農民たちのモチベーションの高揚には至っていないのが現状である。

#### 地域の環境

山西省は中西部未発達地区であり、自然、経済や歴史などの要因で、農業と農村経済発展は全国レベルでまだ中等以下の水準である。山西農村部、とくに辺鄙な地区の農民たちは、新品種と栽培技術への興味はあるものの、勉強の機会が少ない。農村で技能を持っているか、あるいは教育訓練を受けている青年実用人材は、周辺集落の影響で出稼ぎに従事することが多く、経済が発達している地区へ移動してしまうのが現状である。つまり、山西省の「農村実用人材」に登用されても、活躍する場面がない。

#### 体制づくりの環境

a) 「農村実用人材」育成の系統性が欠けている。農村実用人材の特徴および発展への研究不足のために、農村実用人材への理解度が違ってくる。農業専門技術人材あるいは一般の農村人材資源と混同してしまうことが多い。観念上、農業への軽蔑意識は依然として存在し、人材の育成と需要の連携不足は、全省経済および農業生産の発展を阻害している。学習したものの実用性はなく、実用性はあるものの学習していないという矛盾が起きている。教育内容では、農民単一の技術教育を重視したが、複合的な技術教育は行なわれていない。さらには、伝統知識の教育は重視したが、農民革新能力への教育はないのである。



b) 「農村実用人材」の外部環境はまだ十分に改善されていない。政府部門の支援と成長の外部環境の整備は農村人材成長に不可欠な二つの重要な要素になっている。実際には、全省各地で殆ど農村実用人材成長への需要は満たされていない。第一に山西省の経済発展はたち遅れ、生態環境や社会環境条件が悪化しているため、人材潜在能力の開発を阻害している。さらに、農民収入の増加はこれ以上望めなく、経済的に制限されている中で、多くの農村実用人材が技能と才能を持っているが、発揮する舞台がない。

c) 「農村実用人材」の内部環境は不健全である。山西省はまだ農村実用人材への奨励制度がなく、農民の学習モチベーションは高くない。政府部門は十分な情報や技術サービスを提供しておらず、実際、優秀な人材への奨励政策もないために、農村実用人材は順調に発展できない。

#### 4. 結論

山西省の「農村実用人材」は、農村の経済的な発展に重要な要素である。山西省農村人材資源への開発、農村人材チームの強化、農村実用型や科学技術型人材の育成のため、今後、人材発展の政策、体制と環境の革新が必要である。以下の点について提案し、関係各位の鋭意な努力を促すことで本稿を結びたい。

##### (1) 「農村実用人材」の革新工程

優位性がある農業革新人材への育成工程

山西省農業の「三大優勢区」<sup>(注\*3)</sup>、「四大主導産業」<sup>(注\*4)</sup>、「十大優勢農産品基地」<sup>(注\*5)</sup>の建設企画と連携し、山西省の優勢農業、特性農業の発展のための専門技術人材を重点的に育成する。地方、町や村の教育機構および農業技術推進機構は、その地域の優勢産業の発展状況と連携しながら、教育内容を充実し、優勢産業建設項目については計画的に一定の資金の援助を行い、農業革新人材育成を支援する。

「科学技術見本農家」の人材育成革新工程

経営主体が農家である農業生産モデルは、「科学技術見本農家」という人材育成制度を設立し、科学技術推進体制に組み込み、一定の資金や技術を提供し、精神的な奨励を与える。さらに研究所等から計画的に指導者を送り込み、農家を単位とする新しい人材育成システムを構築していけば、徐々に全省の農家および農村経済発展を有利に誘導していく態勢ができていく。

女性実用人材への育成革新工程

現状の女性労働力の軽視、潜在能力の開発不足を改善し、女性の教育訓練を強化し、多くの女性を実用人材に育成する。第一に、就業の考え方を変え、起業意識、起業や就業能力を喚起する。その後、市場へ向け教育訓練基地を設立し、教育内容の質とレベルを向上させ、専用性、実用性や有効性を重視していく。女性が家業などで忙しい特性を踏まえて、自宅を訪問するという訓練方式を併行する。

##### (2) 「農村実用人材」の教育訓練体系の構築

「農村実用人材」の教育訓練体系の改善

「農村実用人材」の教育訓練体系をもっと多様化し、従来の農業技術の訓練規模を拡大し、山西省の農業と農村経済発展の現状を考慮しながら専門課程を設置する。教育訓練基地の建設

を強化し、教育、農業技術や労働保障部門から、四種類の教育訓練機構を厳選し、場所や施設等の一定規模がある教育訓練機構を基地として、教育内容とそれでカバーできる範囲を明確にし、農村実用人材を育成する。町や村の主導地位を發揮し、市町村一体化の教育訓練ネットワークを構築していくべきである。

#### 訓練方式の革新、訓練内容の更新、訓練能力の向上

山西省の農村経済と農業発展に相応しい労働力の技能と需要にこたえ、教育訓練の方法を革新し、訓練の内容を更新しながら、「農村実用人材」への育成を拡大していく。重点的に人材の就業能力、革新能力、技術の吸収能力および発展能力を訓練し、市場意識、品質意識、法律意識および市場開拓と経営管理などの訓練を強化していく。訓練の方式は、地域に応じて多種多様な効率性を求めていく。訓練の内容は、実用知識と実用技能を第一義にして、課程の構造、内容や方法は、単一の技術の伝授から、市場経済や農業技術等の多くの領域にまで広げ、実践を通じて成長していくことを重視していく。

### (3) 環境建設の改善、人材資源開発の保障と促進

#### 政策環境の改善

情報提供、良材提供や良品営業等の面から、農業実用人材へ「優先、優待、優遇」等の政策を全面的にバックアップする。技術と創意により、経済・社会的な効果があった成功例に対しては、政府サイドから奨励すべきである。財政部門では、「農村実用人材」の経費を国の総経費に組み入れ、金融部門および農村信用合作社が資金を提供し、税政部門では税金の減免措置をはかるべきである。政府、社会や個人による多様な投資体制を作り出し、政策では「農村実用人材」の身分制限を取り除き、社会保障制度を改善すべきである。

#### 人材発展体制の改善

「農村実用人材」への奨励体制の健全化と農村実用人材は、技術開発、技術推進や経済実体の創立等の参与に対して、奨励体制を健全化すべきである。一定の成績をあげた人材に対し、重点的に育成・支持、技術項目と税政面での優遇、資金の支持や金融サービス等の全面的なバックアップをする。「生産技能者」、「職人」や「経営技能者」等の「農村実用人材」の資格評価制度の改善、選抜プロセスおよび条件の明確化と管理と評価の強化を施行すべきである。農業および農村経済発展の過程で、特別な貢献を果たした農村優秀人材に対し、合法的に収入を優遇し、優先的に奨励すべきである。

#### 社会環境の改善

「農村実用人材」の盛況に有利な社会環境を作り、農村経済および社会発展へ貢献された人材を宣伝し、「尊重労働、尊重知識、尊重人材、尊重創造」の良質な社会風土を作り出す。農村実用人材の流動に対し、都市部と農村部、地域や身分などのすべてにおいて差別を取り除き、人材発展を阻害する体制を崩壊させ、知的財産と個人財産を法律に基づいて保護すべきである。農村の人材市場を育成し、農村向けの農村人材のサービス提供、配置、交流、教育、訓練や開発を一体化した農村人材体系を構築し、都市人材市場、都市労働力市場と相互的に連携をはかっていくべきである。

## 注

注\* 1：「十一届三中全会」は中国共産党第十一回の中央委員会の三番目の会議で、1978年12月18日 - 22日に北京で開催された。

注\* 2：山西省の概況

中国北部に位置する山西省は、黄河中流域中段で、東経110°15' ~ 114°32'、北緯34°35' ~ 40°45'にあり、河北省、河南省、陝西省や内モンゴルと隣接する。中間は盆地で、東西は山であり、幅は約290km、南北の長さは550kmで、平均海拔は約800mである。全省の土地の総面積は15.6万km<sup>2</sup>、中国全土の総面積の1.63%を占める。境界線の中で山地と丘陵は総面積の3分の2以上を占める。

2005年末、全省の総人口は3355.21万人に達し、その中、男性は1719.33万人で、総人口の51.2%を占め、女性は1635.88万人である。

全省の年間降水量は400mm ~ 600mmで、一人当たりの水資源は531m<sup>3</sup>であり、全国の一人当たりの5分の1を占める。年平均の気温は3 ~ 14℃、昼夜の温度差は比較的大きく、温帯で大陸型季節風気候に属する。

山西省の鉱物資源は豊かで、すでに見つかった鉱石だけでも115種になる。その中、すでに探知した石炭資源の埋蔵量は2327億トンに達する。山西の総耕地面積は約3,656,5haで、土地の総面積の23%を占める。その中、畑は70%以上を占める。

注\* 3：「三大優勢区」とは、雁門関生態遊牧経済区、太行吕梁兩山干し果物雜糧生態経済区及び中南部無公害果実野菜作物経済区を指す。

注\* 4：「四大主導産業」とは、優質雜穀、飼料、干し果物や野菜を指す。

注\* 5：「十大優勢農産品基地」とは、牛乳、食用牛、羊、りんご、干し果物、粘りっこく腰が強い小麦、雜穀（アワやコーリヤンなど）、減農薬野菜、トウモロコシや薬用植物を指す。

## 参 考 文 献

- 〔1〕山西省農村社会経済調査隊（1993 - 2005）。「山西省農村年間統計」。
- 〔2〕山西省農業庁。「山西省農業統計資料 2003」。p.142-149。
- 〔3〕白清才・薛軍・孫玉璋。「山西四十年」。北京・中国統計出版社。1989。p.103-108。
- 〔4〕鄭社奎・范堆相。「山西農村50年」。太原・山西經濟出版社。1999。p.447-480。
- 〔5〕杜創業・王玉琴。「山西農村經濟研究」。太原・山西經濟出版社。2000。p.57-64。